

# 幼小中一貫教育研究だより Vol.12

幼小中一貫教育をより発展させるために、**レジリエンスの育成をめざした取組**をしています。

## ごちそう作り (3歳児)

もも組 担任 妹尾 有貴

子供の挑戦

子供のつまずき

子供の努力

を支える教師のマインドセットを大切にしました実践です 

### 【子供の姿・学びのストーリー 遊びの中の子供の育ち】

ごちそう作りが大好きなもも組の子供たち。夏には土と水を混ぜてトロトロのごちそうを作ったり、年中のさくら組さんが楽しんでいた色水石鹸泡作りなども教えてもらっておいしいジュースを作ったりしました。そして秋になると、木の実や紅葉した落ち葉がいっぱい。それらを使って自分なりのごちそう作りを始めます。さて、どんなごちそうができるのでしょうか。

#### 『見てみて!』

「お料理してるの!」「見て!」とボウルに土だけ入れて混ぜる子供、土と水を混ぜる子供、土と水に加えて木の実や花を入れる子供、葉っぱなどをちぎって入れる子供、トッピングとして木の実や葉っぱを飾る子供、遊び方は様々です。自分なりの料理ができると「見て」「食べて」と嬉しそうに言います。保育者が美味しそうに食べる真似をすると、すごく満足気な表情。そして「もっと作るね!」と意気揚々とごちそう作りを再開し、また次々と新たなごちそうが出来上がっていきます。



#### 『僕たち、シェフ?』

包丁を使って実を切り始めたA児を見て、隣で同じことをやり始めたB児。最初は上手に切れなくて苦戦していましたが、A児のやっているのをじっと見て真似てやっていくうちに上手になっていきます。楽しくなってたくさん切っていくと、切り刻んだ実がいっぱいになってきました。A児とB児は顔を見合わせてその嬉しさを共有します。そして「先生、見て」と言うので、保育者が感心しながら「シェフ、たくさん切ってますね」と声をかけると、「シェフじゃないし♪」と言いながら2人は笑います。そして保育者がその場から離れると、「シェフだって〜」と笑い合いながら、再び実を切っていました。

#### 【教師の思いや願い ~子供たちの“やってみたい”を支える保育~】

楽しそうだと心を動かした瞬間、楽しいと思った瞬間、子供たちは“やってみたい”“もっとやりたい”と感じ、何度も繰り返し遊びます。そして自分がやっていることを「見て」と言ってきます。その思いを大人が丁寧に受け止めたり、優しく見守ったりすることで、さらに挑戦したりうまくできなくても頑張ってみようとしたりします。子供たちは十人十色。楽しんでいることも様々、見て欲しい部分も様々。個々の子供に応じて寄り添っていくことで、その子なりの感性を大切にすることができます。また、友達のやっていることを見たり真似たり教えてもらったり、同じ思いを共有したりして、友達とつながったり心を通わせたりするようになります。だからこそ、子供たちが集団の中で安心して楽しんで過ごせるような雰囲気作りを心がけ、子供たちの“やってみたい”を支えたり、そこで生まれた思いに丁寧に寄り添ったりすることができる保育者でありたいし、そういった保育を子供たちと一緒に楽しんでいきたいと思っています。



## 研究だより（カラー版）

幼小中一貫教育研究だよりをご覧いただきありがとうございます。  
学校園ホームページから、カラー版を閲覧できます。  
よろしければぜひご覧ください。



学校園ホームページ「幼小中一貫教育研究だより」URL

[https://www.hiroshima-u.ac.jp/fu\\_mihara/R7kenkyudayori](https://www.hiroshima-u.ac.jp/fu_mihara/R7kenkyudayori)

## 研究だよりの アンケートにご協力ください

幼小中一貫教育研究だよりをご覧いただきありがとうございます。  
子どもたちのよりよい学びにつなげるため、こちらのアンケートにご協力をお願いいたします。



アンケートフォームURL <https://forms.office.com/r/NcyaJhnhN4>